

第 1 回栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会 議事録

令和 6 年 5 月 9 日（木） 18：30～20：05

栗山町総合福祉センター 中ホール

- 出席者 検討委員 17 名 ※欠席者 1 名
事務局員 3 名 ※教育長（挨拶まで）、学校教育課主幹、学校教育課主事
○傍聴者 0 名

1 開 会

2 委嘱状交付

- ・ 出席委員中、教育委員の 4 名を除く 13 名に教育長より委嘱状を交付
- ・ 欠席委員については後日交付

3 あいさつ 栗山町教育委員会 教育長 吉 田 政 和

- ・ 本日はお忙しいところお集まりいただき大変ありがとうございます。今回、皆様に議論していただく内容は、今後の栗山の子どもたちの将来についての議論になります。非常に大切な会議になりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。
- ・ 栗山町は常に町民の意見を幅広く聞くこととしており、インターネットやキャッチボイスなど、様々な方法で意見を聞く間口を広げて議論を進めていくことになっていくと思います。
- ・ 小中学校適正配置計画検討委員会の委員の中で、栗山町在住ではない方が一人おります。相馬哲也先生です。相馬先生は、北海道文教大学の人間科学部 こども発達学科長であります。子どもの心とからだを中心に、理論的な部分からのご意見もいただけるかなと思います。それから、栗山高校の学校運営協議会の会長もされており、町で言えば高専連携一貫プログラム事業にも携わっていただいております。町外からの参加であります。皆さんと一緒に議論していただける学識経験者という立場で、栗山町の子どもたちの成長のために参加していただいております。
- ・ 今後は、私はこの会に参加することは出来ませんので、皆様のご意見を私が受けて町長に話をもっていき、その結果を果たさなければなりません。その為に今年 1 年間、数回の委員会が開催される中で、方向性を決めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4 出席者紹介

- ・ 事務局より出席委員と事務局職員を紹介

5 委員長・副委員長選出

委員長 相馬委員

副委員長 木藤委員、腰本委員

[委員長]

- ・ 委員長を拝命いたしました北海道文教大学の相馬と申します。
元々、高校の教員でございまして、その内、南空知の学校には美唄南高校と岩見沢緑陵高校で教員をしていたことがあります。そういうことで南空知は自分にとっても思い出深い地域です。
- ・ その後、北海道教育委員会に所属してからも栗山高校の学校運営委員会に関わるなど、そういう関係もあって今回お声掛けいただいたこともあります。自分のお世話になった地域に何かお役にたてることがあればという思いがあり、今回、参加させていただきました。
- ・ この会はなかなか重たい内容であります。みなさんの活発な意見を受け止めながら方向性を決めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

進行：委員長

6 経過報告

説明資料1

[事務局]

- ・ 適正配置の検討につきましては、昨年10月に開催した「まちづくり懇談会」において、地域との懇談を開始することを説明して以降、町総合教育会議や議会全員協議会などでの説明や、1月22日から2月9日にかけて開催した「子どもたちのための学校教育の在り方について語り合う会」での懇談を経て、現在に至っております。

7 栗山町立小中学校適正配置計画と検討委員会の役割について

[事務局]

- ・ 本日、委員の皆様にご協議をいただく前に、これから策定する適正配置計画の概要と、本委員会の役割についてご説明させていただきます。

1) 栗山町立小中学校適正配置計画について

説明資料2

参考資料

[事務局]

- ・ 説明資料2をご覧ください
- ・ まず、適正配置計画について簡単に説明しますと、将来の子どもたちの教育環境のことを考えたうえで、学校の数や校舎の位置などを定めるものです。
- ・ 計画のフレームは1ページ目に記載のとおりで、5章立てとなっておりますが、今後の検討結果によっては内容を変更していくことも想定しております。
- ・ 2ページをお開きください。
- ・ 1章目は基本的な事項として、基本的な理念など5項目を定める予定です。
- ・ 続きまして、3ページをご覧ください。
- ・ 2章目は特色ある学校づくりに関する事項として、「小中一貫教育の推進」や、栗山らしい学校運営ができるように「ふるさとキャリアプログラムの推進」などの3項目を定める予定です。
- ・ なお、「小中一貫教育」につきましては、最近、新聞などで近隣市町での義務教育学校の設置についての話題も出ていることから、ここで簡単に概念的なものをご説明させていただきたいと思います。
- ・ 事前配布した資料の後ろの方に「参考資料①：義務教育学校について」という資料がありますので、こちらの2ページ目をお開きください。
- ・ 中段に「義務教育学校と小中一貫型小・中学校の違い」がまとまっておりますので、そちらをご覧ください。
- ・ まず、「義務教育学校」とは、2016年から制度化された新たな学校種です。施設一体型と施設分離型の2つの形態がありますが、修業年限はいずれも9年間です。
- ・ 北海道内では、歌志内学園、とうべつ学園、早来学園などが義務教育学校で、この他にも現在、長沼町と砂川市とで義務教育学校設置に向けた準備が進められています。
- ・ 義務教育学校のメリット等は後ほど資料をご覧くださいと思いますが、今後の検討にあたっては、こういった方法も選択肢の1つに入ってくることも念頭に置いていただければと思います。
- ・ 続きまして、説明資料2の5ページにお戻りください。
- ・ 3章目は学校規模の適正に関する事項として、適正化に関わる考え方などの6項目を定める予定ですが、委員の皆様には、特にこれらの項目についてご協議いただきたいと考えております。

- ・ 続きまして、7ページをお開きください。
- ・ 4章は「その他関係事項」として、計画の推進・遂行の留意点を定める予定ですが、協議の結果、学校数が変わる場合は、閉校する学校施設の取り扱いについて項目立てする予定です。
- ・ 最後に、8ページをお開きください。
- ・ 第5章は計画のスケジュールに関する事項であります、学校数が変わる場合は、それに関連したスケジュールを項目立てする予定です。

2) 栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会の役割について

説明資料3・4

[事務局]

- ・ 説明資料3「栗山町立小中学校適正配置計画検討委員会設置要綱」をご覧ください。
- ・ まず、本委員会の設置目的について第1条になりますが、児童生徒により良い教育環境を整備するため、新しい学校づくりのための協議検討を行い、教育委員会に対して提言する組織として設置するものです。
- ・ そして、委員の皆様をお願いしたいことは、第2条の所掌事務になりますが、児童生徒の減少、学校施設の老朽化等を踏まえてご検討いただき、学校の適正規模や配置の基本的考え方ととりまとめることになります。
- ・ その結果を適正配置計画の案としてまとめて、教育長へ最終提言を行うことところまでが委員の皆様の任期となります。
- ・ これを踏まえて策定までのスケジュールですが、説明資料4をご覧ください。
- ・ まず、検討委員会は今日を含めて4回を予定しております。
- ・ 流れの①ですが、本日の会議では、検討にあたって必要となる現状や課題や進め方などを説明させていただきます。
- ・ 委員の皆様からの意見については後日とりまとめいたしますが、この辺の詳細はこの後の議題でご説明いたします。
- ・ 続きまして②ですが、集約した意見を踏まえて計画素案を事務局で作成し、第2回目の検討委員会で計画素案をご協議いただきたいと思いますと考えています。
- ・ 次に③ですが、計画素案が完成した後、住民の皆様からの意見を集めるため、パブリックコメントを実施します。
- ・ 次に④ですが、パブリックコメント結果を踏まえた計画案を事務局で作成し、第3回目の検討委員会で計画案をご協議いただきたいと思いますと考えております。
- ・ 最後に⑤ですが、第4回目の検討委員会で計画案を協議、決定し、その内容を提言書として教育長へ提出します。
- ・ 検討委員会の役割はここまでとなりますが、その後、教育委員会会議における審議を経て計画を決定し、計画の内容を住民のみなさんへ周知します。以降、計画に基づいて学校環境の整備を進めます。
- ・ また、この動きについては、栗山町総合教育会議や教育委員会会議、町ホーム

ページでの情報発信を通じて、随時、情報共有を行っていきます。

- ・ 説明は以上となります。

—質疑等—

※質疑等無し

8 議 題

(1) 栗山町立小中学校適正配置計画に定める内容について

- | | | |
|------------------------|-------|----------|
| 1. 目指す姿や課題について | | 説明資料 5 |
| 2. 栗山町立小中学校適正配置基本方針の説明 | | 説明資料 6 |
| 3. 検討いただきたい項目について | 検討用資料 | 意見・質問記入票 |
| 4. 意見の集約方法について | | |

[事務局]

- ・ まず、本町が目指す学校教育の姿や課題についてご説明いたしますので、説明資料5をご覧ください。
- ・ 1枚目の下段ですが、町が実現したい学校教育の在り方は、栗山町教育ビジョンの中で「過去に学び、現在を生き抜き、夢と志を持って歩む、栗山の子」を目標としています。
- ・ 次のページをお開きください。
- ・ その目標の実現のために「小中一貫した教育」を基盤にした取り組みが必要です。
- ・ 現在の主な取り組みをいくつかご紹介すると、まず、ハサンベツ里山での自然環境教育。次のページをご覧ください、栗山町と由仁町とで栽培されるサツマイモ「由栗いも」を使った食育事業。年3回、栗山町産の食材だけを使った給食の提供。次のページをお開きいただき、介護福祉学校と連携した福祉に関する土曜授業の実施。中学校1年生を対象とした職場体験学習。次のページをお開きいただき、近年、進んでいるICTを活用した授業など、栗山ならではの特色ある授業を行っています。
- ・ しかし、一方で課題もあります。
- ・ それぞれの学校で頑張って活動していますが、各校が、互いの活動を理解し、「良さ」を共有しあう姿勢に課題があります。これは、制度的・物理的に離れていることで連携に限界があるためです。
- ・ 次のページをお開きください。
- ・ また、令和9年度になると、継立小学校の新入生が1名で全校生徒が22名になり、継立小学校では全学年で、角田小学校では1・2年生を除く学年が複式学級となる

見込みです。

- ・ こういった課題などがありますが、児童数の減少や校舎の老朽化などのネガティブな問題点を切り口とせず、より良い学校経営の具現化のため一貫教育のメリットを最大限に生かす視点で考えていくことが重要となります。
- ・ 次のページをご覧ください。
- ・ この写真は、東京都品川区立豊葉の杜学園での教育活動の様子ですが、一貫教育のイメージとして載せています。
- ・ グラウンドで運動会の練習をしている小学3年生の頑張りを、同じ施設で学ぶ幼稚園年長組の幼児が食い入るように見つめており、その後ろには 中学2年生の生徒が将来、幼稚園教師になることを夢見ながら職場体験 学習を行っています。
- ・ ここの一環教育の環境には、子ども達同士で高め合い、自信を持ち続ける教育的要素が詰まっています。
- ・ 次のページをお開きください。
- ・ こういった現状や課題を、令和6年1月22日から令和6年2月9日までの間、全7会場で開催した「子どもたちのための学校教育の在り方を語り合う会」でも説明し、269件以上の意見やアイディアを総勢77名の参加者のみなさんからいただきました。
- ・ どの会場からも、子どもたちには、栗山の地域性を活かしながら、色々な経験を通じて成長できる環境をつくってあげたい気持ちが強く表れていましたが、前向きな話題が数多く出された一方で、少子化による教育環境への影響を心配する話題も全会場で出ていました。
- ・ 以上、現状や課題の概要についてご説明しましたが、詳細な資料につきましては、検討用資料1～3にまとめていますので、後程ご確認ください。
- ・ 続いて、適正配置を検討いただくにあたって、基本方針を今年の3月に定めております。説明資料6「栗山町立小中学校適正配置基本方針」をご覧ください。
- ・ こちらは、適正配置をご検討いただくための基本的な考え方をまとめたものです。
- ・ 例えば、5ページ中段に学校規模の小学校について記載されていますが、教育活動に対応できる教員を確保し、クラス替えなどに対応できることなどが理想であると考えことから、小学校の学校規模は、文科省が定める適正規模基準である12学級以上（各学年2学級以上）を基本的な考え方として定めています。
- ・ なお、小規模校の良さもあると思いますが、小規模校の「よさ」と「課題」につきましては、参考資料②「学校の適正規模」にまとめていますので、後程ご参照いただければと思います。
- ・ また、7ページをお開きいただきまして、下段の「5. 検討に関わる留意事項」の（1）基本的な論点であります。将来的に児童生徒数が見込まれることから、学校の集約または通学区域の変更を基本にご検討ください。

- ・ 8ページをご覧くださいまして、(2) 学級編制及び教職員の定数配置につきましては、従来通り、国や北海道が示す基準を適用して配置することを基本にご検討ください。つまり、検討の時点では町独自で教員を雇用するなどは加味せずにご検討をお願いいたします。
- ・ また、(3) 学校施設及び関連施設の取り扱いについてですが、もし、適正配置により、学校の統廃合を行うとした場合は、廃校となる校舎等の活用等について適正配置と並行して進めることとしています。
- ・ これまでご説明してきました目指す姿や課題、基本方針に基づき、まず、委員の皆様からご意見等をいただきたいのですが、その方法につきましては、本日、配布いたしました「小中学校適正配置への意見・質問記入票」を使ってご説明いたします。
- ・ 第2回目の検討委員会で具体的な協議を進めるため、まずこちらの記入票への記入を皆さんにお願いしたいと考えております。
- ・ 1枚目は関連施策の推進についてですが、検討用資料No.を記載していますので、それらを参照しながらご意見や、ご質問があれば記載ください。
- ・ 2枚目から5枚目からは、本委員会で主にご意見をいただきたい内容となっております。
- ・ 例えば、「2. 学校数」ですが、タイトルの下に記載している検討用資料のNo.3-1～3-6に児童生徒数の推移や検討にあたってのポイントを記載しております。さらに、参考資料の義務教育学校や小規模校についての資料なども参考としながら、学校数や校舎の位置などがどうあるべきか記載ください。
- ・ 最後に6枚目は、説明資料2「計画のフレーム」をご覧ください、全体的に意見や質問等があればご記載ください。
- ・ 以上を5月31日までに作成をお願いしたいのですが、金丸までご連絡をいただければ取りに伺いますので、その時に色々とお話を伺わせてください。また、本様式をデータで必要な方は送ることができますので、本会議終了後にお知らせください。
- ・ 説明は以上です。よろしくお願いいたします。

—質疑等—

[委員]

- ・ もし、小中学校が1つになったした場合、学校規模はどれに該当するなのか。また、小中一貫の学校になった場合の学校規模は、小と中とがそれぞれで判断されるのか。

[事務局]

- ・ 3小学校が1つになった場合は、令和12年までは2学級が維持出来る見込みのため適正規模となります。小中学校が1つの一貫校となった場合は、小学校は適正規

模となり中学校は小規模となります。

[委員]

- ・ 新しく学校を建てる場合、どの辺りに建てる可能性があるのか。

[事務局]

- ・ その辺は皆様のご意見を聞いて、次の委員会で案をお示しできたらと考えております。現実的なのは、今ある学校の近くとと思っているので、意見・質問票の「3. 校舎の位置」については、選択肢として現在の校舎敷地内の4択とその他を設けているので、ご記入いただければと思います。

[委員]

- ・ 最後に、説明資料5の“目指す姿”の写真のように、幼稚園や保育園も一緒になるという案はないのか。

[事務局]

- ・ このタイミングでは義務教育の期間中の小学校・中学校をどうするかということですが、今後、適正配置の検討が具体的に進んでいけば、次の段階で可能性としてはあると思います。

[委員]

- ・ 将来的に学校をどうしていったら良いのかという検討と同時に、そういった意見を一緒に出していただければ皆さんと検討していければ良いと思うので、意見を出していただければ有難く思います。

[委員]

- ・ 学校施設について、一番古くて昭和45年の栗山中学校の体育館、校舎では昭和53年の栗山小学校ですが、施設の寿命はあるのか。

[事務局]

- ・ 法定耐用年数もあるのですが、長寿命化の工事をすれば使い続けられる。しかし、今の栗山中学校の体育館は校舎よりもかなり古いため、構造的には厳しいところではあります。将来を見据えて子どもたちにとって、どんな施設がよいかをご検討していただきたいと思います。

[委員長]

- ・ 疑問があると聞いて、答えて、また聞いてを繰り返すことでより理解が深まります。まずはこの質問・記入表に思いつくだけの意見や質問をご記入頂き、多くの共通質問があれば次回の委員会で答え、その答えに対し質問があれば聞いていただき深めていく。このやりとりになっていくかと思います。そういった部分でも、この質問・記入票には沢山ご記入いただければと思うところであります。

[委員]

- ・ この質問・記入票の提出はFAXでも良いか。

[事務局]

- ・ はい。良いですが、直接取りにも伺います。出来るだけ皆様とコミュニケーションを取りながら進めてまいりたいと思っておりますので、取りに伺った際に直接お話が出来たらと思います。ぜひお声がけいただければと思います。

[委員]

- ・ 皆様の色々な意見を聞いたうえで、記入したいです。というのは、様々な地域があり、色々な立場の方々が集まっているので。今、説明を聞いた上での感想で構いませんので、一言お願いできますでしょうか。（教育委員を除く）

[委員長]

- ・ では、教育委員を除き感想を一言ずつお願い致します。

[委員]

- ・ 小学校が一つになると想定しながら、その前段階としてこの場に参加しております。一つになることで各地域の行事（例えば、栗山まつり、角田まつり、継立まつり）ごとに休みがとれるのか心配なので、地域への影響がこれからの課題になるのではないかと思いました。

[委員]

- ・ 私は町外の小規模学校で過ごしてきました。そのため、大規模化するメリットのイメージが沸かないというのが率直な意見であり、小規模でもメリット、デメリットもあると思います。現在、私の子どもは栗山小学校に通っており適正規模の学校であるため、1つになるというイメージが沸かない。ただ、角田や継立の小学校へ通っている保護者の意見を聞くことがないので、とても気になります。
- ・ 学校の数が変わるのであれば、小学校、中学校だけではなく、図書館や地域の公共施設が一体となった空間で、子どもも大人も、高齢者も交流できるような場所であればいいと思います。

[委員]

- ・ 今、聞いての率直に思ったのは、小中一緒になったら何かと問題になることが発生するのかなという気持ちがあるのと、でも、これから先、問題がもっと山積みになると思うので学校の数を見直すのは早い方が良いのかなと思っています。ただ、学校規模が大きくなっても、小さくなっても、小さい学校でできた様なことができればなという考えも持っています。
- ・ 今のところ明確な考えは出てきていないのが現状です。これから考えていく上で色々な問題は、仮に学校の数が変わらなくても、令和12年度を見越して考えれば出てくると思います。

[委員]

- ・ 小学校3校の中で継立小学校は一番の小規模の学校なので、その辺は、校長としっかり考えてやっていくべきではないかと考えています。

- ・ 私は継立で、保育園、小学校、中学校と育ってきました。学校数が変わることは可能性としてあると思いますが、継立地域が寂しくなるなという気持ちではありません。しかし、将来の子どもたちの為に考えるとすれば、やっぱり学校数を見直してもっと子どもたちが楽しめる学校づくりが出来れば良いと思っております。
- ・ それと、場所の面もあるので、継立となるとバス通学が必須となると思うので、その辺も皆さんと協議できたらと思います。

[委員]

- ・ 数年前、継立中学校と栗山中学校が統合しましたが、自分の子どもが栗山中学校に通っているところを見ても特に違和感ないかと思っております。
- ・ 私は町内の小規模校出身です。当時の卒業生7名でしたが、約200名の栗山中学校へ入学するという楽しみと怖さもありその中で成長してきました。当時、少人数校で過ごしていた時の栗山小学校の人数は1,000人程の規模だったのでとても懂れていました。
- ・ 現在の町広報の出生欄を見ても、1人や2人、0人の時もある。子どもたちにとって、入学式が1人、2人は可哀想だと思うので学校数を見直しする方が良いと考えておりますが、皆様の意見など聞いて、考えが変わるかもしれません。これからどうぞよろしくお願いいたします。

[委員]

- ・ 新校舎を建てる案があることに驚きました。その予算はあるのか、もし可能ならば子どもたちにとって新校舎の方が良いと思いました。
- ・ 小学校だけの話と思っていたので、小中も含めた案があることにも驚いています。
- ・ 3月まで町外に在住し大きな学校に子どもを通わせていて栗山小学校の1.5倍くらいの人数でありましたが、仮に3小学校が1つになっても、それよりは人数が少ないので、距離的な問題などがありますが、人数的なことは適正なのかなと思いました。
- ・ その前に海外にも住んでいたことがあり、通っていた学校は幼保小中一貫の学校であつたので、中学校で行う演目を幼稚園児が見れる、小さい頃から、この様な経験が出来ることが刺激的でした。小中一貫となれば低学年の子たちからすると、良い経験になるし中学生からすると下の子たちのことを考えて育つ環境はとても良いことだと思います。

[委員]

- ・ 継立中学校が栗山中学校と統合したときの当事者であります。
- ・ 野球チーム、バスケットチームがやっと作れる人数でありました。当時は、地域が疲弊するといった意見と、選択肢として与えてあげるものが少なすぎるという意見がぶつかり、言い合いもありました。
- ・ しかし、結局は通うのは子どもたちであり、時代は目まぐるしく変わっていく中で

可能性と多様性が求められていく世の中であるので、何が正解か分かりませんが、率直な意見を皆さんで出し合って明るい方向に行けたらと思います。

[委員]

- ・ 自分の地域の中に児童生徒が少ないため無関心でありました。
- ・ その中でも新規就農者が地域に入っており、その方が小さいお子さんがいるので、ようやく子どもたちの声が聴けるようになりました。
- ・ 現状、小学校3校、中学校1校ではありますが、少子高齢化が進むと現状維持することが困難であると考えているから、今回の検討委員会を立ち上げたのでしょうか？

[事務局]

- ・ 困難であるというよりか、将来的に子ども達の人数が減っていくことが見込まれる中で、このままで良いのか、変えていく方が良いのかを、まずは皆様と議論をして決めるギリギリのタイミングです。
- ・ 今は困っているから、ではなく、将来の子どもたちの為にどのような学校づくりをしていくか、地域の方、保護者の方、学識経験者の方々にご意見を頂きたく集まっています。

[委員]

- ・ 私の地域の世帯数は40世帯程であり、多いときは80世帯程ありました。いわゆる限界集落であります。今後、子どもが増える予定もありません。新規就農者が唯一の希望であります。新規就農者がどう考えているのか、どのような希望を持っているのか聞き取りをして回答したいと思っています。

[委員]

- ・ この会議にしてもだが、継立小学校の今年の新入生が2名と分かっているのに、役場の対応が遅すぎるのではないかな？
- ・ 我々70歳を過ぎた年寄りと言う前に、まずPTA会長あたりが早急にPTAをまとめて、PTAが決めた案について我々は賛成もするし、PTAができるだけ早くやって欲しいという話であれば、令和9年度とは言わず令和8年度にだってやれるだろうが、これは役場の対応が遅すぎると思う。
- ・ 校舎の建て替えについて。今、日赤病院を建て替えるのに、新しい校舎の案が出ているが本当に出来るのか？出来ないなら出来ないと言うべきだし、最初から案に載せない方が良くと思う。借金が増えたら、今の小学生、中学生が返さなければならない時代がくるので、そういう面もよく考えて早急にやるべきだと思います。

[委員]

- ・ 私も同感で早急に取り組むべき。角田も児童が減少していて大変な時代になっている。役場、地域の方々がより良く語れる場になればいいと思います。

[委員]

- ・ 4月に交通安全指導のパトロールに参加しましたが、児童生徒が少なくなったと

実感しました。それだけ少子化が進んでいる。

- ・ 数年前は、幼稚園、保育園が閉鎖するということに地域の方々は反対をしている方もおり、その中でも行政は一生懸命頑張っていたと思います。
- ・ 先日、新聞で人口戦略会議についての記事を読みました。30年後には全国の自治体の40%が減る、消滅する可能性がある時代になってきている。
- ・ そんな中でこの検討委員会がどうなっていくか、面白いと思い興味を持っております。皆様の知恵を借りながら、進めていきたいと思っています。

[委員]

- ・ 皆様の意見とても参考になりました。
- ・ 栗山小学校もこのままいくと2学級が維持できない。この規模でクラス替えが出来ないとなると、いじめの問題、不登校の問題、色々ありますが、固定化された人間関係が続くので危うい。
- ・ 小中学校が一つとなった場合、先生の数が増えるので子どもたちを見とる先生が増える。そういった意味では先も見えるし、9年間同じ校舎に通えるというメリットも大きい。
- ・ 今、中学校1年生になって不登校になる生徒が増えてきている。環境が変わることが主な原因なので、そういったことも解消できるのではないかと考えます。
- ・ 継立小学校の今年の新入生は2名であります。運動会がこれから始まりますが、徒競走も2人でしか走れないので勝敗は決まっている。なかなか自己肯定感を高められない。令和9年には1人ということを見ると、校長として見ても厳しい現状であります。
- ・ もちろん、他の委員が仰っていたように、小規模のメリットは沢山あります。ただ、これからの子どもたちのことを考えるとデメリットも大きい。
- ・ 空知全体を見た時には栗山町の進むべき道は、私個人の考えとしては小中一貫で9年間、沢山の先生がいる中で見てあげた方が、子どもたちはすこやかに育つのではないかと思います。
- ・ 校舎は、栗山小学校は限界値に近いと思います。私も勤務していた時代に壊れていくのを目にしているので。

[委員長]

- ・ みなさんありがとうございました。教育委員の皆さんからも一言お願いします。

[委員]

- ・ 学校の配置をどうするかという話しは、数年前からありました。
- ・ 継立中学校と栗山中学校の統合の際にも関わらせていただきましたが、当時は小学校を統合するという案はありませんでした。というのは、当時、角田小学校も継立小学校も100名弱の人数でありました。
- ・ 中学校が統合してからこの9年間で児童の人数がこれだけ減るという予想が出来

ませんでした。6年後までの予測は出来ましたが、この数年間で今のような状況になってしまった。

- ・ ですから、遅すぎたということはあるかもしれませんが、現状を踏まえ、早急に皆様に検討いただいて、栗山町の子どもたちに、将来どのような環境でどのような教育をさせてあげれるのかが一番重要なことだと考えております。
- ・ 皆様、色々な考えをお持ちかと思います。委員が仰っていた新校舎が建てられるのかとありましたが、大変なお金がかかることではあります。新校舎を建てるのが良いという意見が出たとします。現実的には不可能ということもあります。しかしながら、皆さんのそのような意見が多くあれば、今すぐではなくとも近い将来、何年か後にはその方向で進めていく、そういった考えをもって配置計画を考えることで、やり方も変わっていくと思います。
- ・ なので皆様には率直な意見を出して頂いて、より良い方向で進んでいきたいと考えております。

[委員]

- ・ 自分の子どもがいた頃と比べて、凄い勢いで子どもが減ってきている。
- ・ 私の子どものが小中学校へ通っていたころから適正配置に関しては気になっていましたが、地域の方々の想いもあるかと思います。
- ・ なるべく良い形で早く進んでいくよう頑張っていきたいところであります。出来る出来ない、分からないことは教育委員会へ聞いていただいて構いません。まずは、思っていることを言っていきたいと思います。

[委員]

- ・ 私は、栗山小学校だったので小規模ではありませんでしたが、角田小学校や継立小学校の各々の良さを聞いておりますし、今回の語り合う会でも参加させていただいて、小規模校の良さ、メリットを知りました。
- ・ ただ、現状、これから先のことを考えると小規模校だけの維持は難しいと思います。皆様の意見を参考にしてより良い学校にしていけるよう、皆様のご協力をお願い致します。

[委員]

- ・ 現状と課題を抑えて、そして、目指すべき姿を明確にして考えていきたいと思います。
- ・ 私は、継立に在住しており長いことPTA活動に参加しておりますが、やはり限界が来ていることは確かであり、これ以上、先延ばしは出来ないと感じております。
- ・ 小規模校は小規模の良さがありますが、選択の自由、選択肢が狭い。いろんな縁があって子どもたちが学べる環境であることが良いと思っております。
- ・ 今日1日だけでも沢山の考えかたを聞いて、色々な考えがあるなと感じております。皆様と一緒に考えていきたいと思います。

[委員長]

- ・ 議論は、あらゆる可能性を否定しないというスタートラインに立つということで、子どもたちの教育について語る。したがって、予算的に新校舎は無理ではないかと誰もが思うことであっても可能性のある限りは議論すべきだと思います。
- ・ 場合場合の可能性を探る。栗山町での予算では厳しくても国から補助金が出るということもあり得るので、ギリギリまでリサーチしていく必要があると思う。
- ・ 小学校数の見直しについては賛成と意見がありましたが、総論賛成・各論反対のように、総論賛成で決めてしまうと、後から、この条件の時はどうなる、あの条件の時はこれなら反対といったことになる可能性もあるので、各論を詰めながら総論を整理していく必要があるとしたときに、この会議の意義重要性があると思います。
- ・ 余談ではありますが、私はへき地小規模校教育を研究テーマとしておりまして、義務教育学校の調査もしており、全道の小規模校を現地調査しているところであります。
- ・ 全校児童2名の学校も見てきました。そういったところの良さや、子どもたちにとってデメリットなところも、機会があれば皆様にお話ししながら、進めていければと思います。
- ・ 本校の学生が令和5年度に継立小学校へ3日間、学校体験に行きました。非常に良い経験が出来ております。学校教育に大学生が手伝いに行ける仕組みですとか、今回の議論とは別ですが、何か栗山の学校教育と絡めることが出来ればと思います。
- ・ 次の検討委員会に向けて何かご要望、ご意見はありますか？

[委員]

- ・ 9年前に中学校が統合した後の振り返りの場などはあったのか。もしあれば良い点、悪い点を教えて欲しい。

[委員]

- ・ 中学校の統合の時は、その様な場を開いたことはないですが、部活や先生、学校の校長先生、教頭先生からのお話は聞くことは出来ました。

[委員]

- ・ 内容は出して頂けるのか。学校数を見直しする際に、何かそういったものがあると、加味しながら考えていけると思います。

[事務局]

- ・ その様な資料が存在しているか確認し、存在していれば次回、提示します。

[委員長]

- ・ 学校数を見直した時に、こういうことに注意した、工夫した等の、語り継がれる内容があれば是非参考にしたいと思います。

9 そ の 他

(1) 次回の検討委員会の日程について

[事務局]

- ・ 次回の検討委員会につきましては、6月下旬に予定しておりますが、時期が近づきましたら、改めて日程調整についてご案内しますのでよろしくお願いいたします。

[委員]

- ・ 個人的なお願いで、可能であれば開始時間を30分早めて欲しい。

[事務局]

- ・ 他の委員さんとの兼ね合いもあるため検討させてください。

10 閉 会

20:05 終了